

令和4年度 第1回苫小牧市総合戦略推進会議 議事録要旨

- 【日 時】 令和4年10月6日（木）14:00～15:30
- 【場 所】 苫小牧市役所5階 第2応接室
- 【出席者】 佐藤(郁)会長、菊田副会長、荒川委員、大沼委員、片石委員、
佐藤(聰)委員、竹田委員、成田委員、畑中委員、平川委員、山上委員
- 【事務局】 苫小牧市 政策推進室 山田室長、
政策推進課 茶谷課長、吉田課長補佐、水谷主査、松下主事

議 事 次 第

- 1 開会
- 2 会長挨拶
- 3 議題
 - (1) 令和3年度の取組と中間見直しについて
 - (2) 意見交換（質疑を含む）
- 4 その他
- 5 閉会

3 議題

(2) 意見交換 (質疑を含む)

< A 委員 >

苦小牧に来てから20年ほど子育て支援に関わりを持って活動をしている。

若い母親達からは、子供は3人～4人欲しいが、経済的理由で産めないという話を聞く。

出産の費用補助など、子供を3人、4人産んだ場合の支援制度などがあれば、4人産んだりする人が増えると思う。

また、現在、大学進学が普通になってきており、将来大学に入りたいが、子供が4人もいたら大変という話も聞く。

最近では父親も育児休暇など、子育て休暇の取得が増えてきているが、まだまだ父親の育児休暇取得が困難な職場がある。

そういう環境の中で、子供を3人、4人産んで、子育てしながら共働きすることは非常に大変だと思う。

若い方々が安心して子育てをし、子供を産める、そのような条件を備える施策を市として考えていただければ、人口は増えるのではないかと思う。

< B 委員 >

定住人口の増加は非常に難しく、歯止めをかけるだけでも精いっぱいというような気がする。

まずは、交流人口を増やさなければならない。

弊社では、30人近い職員を毎年採用しているが、辞めていく方も多く、3年以内の定着というのは非常に低い。

若者にとってみれば、苦小牧は、遊ぶところ・交流できるところが少ないと感じる。苦小牧だけではなく、他のエリアとの交流を増やしていかなければ、苦小牧自体のプレゼンスを上げられないと思う。インターンシップ事業を始め、各種イベントなど色々取り組んでいるが、何となく花火を打ち上げて終わってしまっているような気がする。お金をかけるのだから、将来につながるような視点で、ほかのエリアにも発信していただきたい。クラフトビールやサウナなど、おもしろい取組も多くあり、これを根づかせてほしい。

それでもやはり、定住人口を増やすのは難しいので、交流人口を増やすことから糸口を見つけられないかと考えている。

< C 委員 >

5年計画の中間報告ということで、進捗状況が大分進んでいるものもあるが、コロナ禍でも、もう少しできることがあるのではと感じる部分がある。

施策の基本的方向2-4の「ワーク・ライフ・バランスの促進」において、ワーク・ライフ・バランス等企業表彰は中止になったと報告があった。北海道で初めてイクボス宣言をした本市の取組を民間企業へ水平展開するため、イクボスを開始したときに講演して下さった方が、全国で活発に活動しております。苫小牧市としてもその先につながるものが展開できるのではないかと考えていたので、少し残念。イクボスを通じて、子育てに対する父親参加の理解を企業・市全体で進めていくことで、育児をしやすい環境が整っていくのではないかとと思う。

基本目標2の数値目標で、子育て環境や支援の満足度が5段階評価で、平成30年が2.9、令和6年の目標が3.3となっているが、中間地点でのアンケート集計は考えていないのか。

保育料について、3歳児以上は無料になっているが、0歳～2歳は苫小牧市に納入という形で発生している。子育ての負担軽減を考えるのであれば、その部分も着手の方向で検討していただきたい。

障害児加配について、障害や困難さを抱えた子ども2人に対して職員1人の配置補助がついている。困難さを抱えた子どもたちの保育時間は長く、保育園、幼稚園、認定こども園では施設の持ち出しで、子どもを見ているというのが現状であり、その辺のカバーを市のほうで検討してもらいたい。障害の有無にかかわらず、どのお子さんも十分な保育が受けられるような体制整備を期待している。

<D委員>

地元の魅力を強化、移住を促進の各施策を、達成状況を100に持っていくために、どんどん取り組んでいただきたい。

移住を促進するためには、苫小牧のファンを増やしていきたい。

スポーツ合宿やイベントで全国からたくさんの方が苫小牧に来ている一方で、ノープランで旅行する人も結構多い。イベントで来る方は交通機関を調べて苫小牧にたどり着くが、ノープランの方は空港に着いてどこ行こうかとなればまず札幌に行ってしまう。

また、8年後に新幹線が延びたとき、苫小牧、室蘭は取り残されるという懸念がある。

ノープランで旅行に来る人が、JRで周遊できるような旅行の仕方を実現し、苫小牧に寄ってファンになってもらうためには、新千歳空港から苫小牧側に鉄道を直結（スルー化）することが必要だと思う。空港は北に目が行っている。大雪で宿泊施設がなくなったときも札幌・千歳にないということで、苫小牧に連絡がくる。南を向かせるためにもスルー化が必要。

交流人口を創出するため、スルー化について、国にもっとアピールしてほしい。

<E委員>

仕事柄、全道各地に引っ越しがあるが、4月に苫小牧に来て感じたことは、比較的、ほ

かの北海道の市町村に比べて元気がある。

小樽地域は、全道一高齢化率の高い地域で人口減少が著しい地域であり、人口減少対策をいろいろしていた。一方、江別市は逆に人口が増えており、理由を考えると、江別地域は札幌のベッドタウン的なことを受け入れたというイメージがある。

苫小牧は札幌からある程度距離がある。小樽や江別は札幌から通えるが、苫小牧は少し厳しい部分がある。苫小牧の定住人口を増やすということになれば、苫小牧は産業、製造、物流の拠点なので、それを活用していくことが重要だと思う。

若者にとっての魅力的なまちづくりも重要。苫小牧駅を降りると、ちょっと寂しい。駅前の開発も、若者にとって魅力のあるまちづくりという点では必要なのではないか。防災対策も安心して住んでもらうには必要。樽前山もあり、胆振東部地震もあった。そういう状況も踏まえて、防災対策もしっかり取り組んでいく必要があると思う。

<F 委員>

人口について、自然減を自然増で補うことは日本全体として非常に困難であり、他の地域からの流入、これが一番大きな課題だと思う。

他の地域から流入してもらうためには、3つのポイントがあると思う。

まず、医療の充実。何かあったときに市外の病院を選ばなければならないということではなく、苫小牧の病院を選んでもらえるような、医療の充実が必要。

次に教育。家族ごと来るのではなく、単身の流入になってしまう一番大きな理由は教育であり、苫小牧は非常に弱い。大学誘致できれば良いが、なかなかそうもいかず、1回市外に進学した人を呼び戻すのはなかなかハードルが高い。苫小牧に複数の大学、大学といかなくても様々な学校ができれば、市外流出を防ぐことができるのではないか。

最後に、働きやすい環境。家族と転入する場合の奥様の労働力。資料10ページを見ると、一時預かり事業の保育型は達成率が38.8%、幼稚園型は92.4%となっているが、これは保育型を選ばないのか、または選べない状況なのか。現在、幼稚園だと職員1人に園児35人くらい。一方で、0歳~2歳児は園児3人に職員1人。そのくらいのスタッフが必要となっている。しかし、苫小牧は、保育士を養成するような専門学校、もしくは保育科のある学校、がないため、保育士資格がなかなか取れず、保育士の人材が不足している。

私どもの会でも支援が必要と言ってきたが、建物を建てるのは無理という市からの回答だったので、せめて学生に支援をしてほしい。苫小牧で就職すると支援金の返済義務がなくなるなど、そういう形で保育士を増やせば、市内就職率も上がり、市外へ出ていかないので市内に定住するという形にならないか。

働きやすい苫小牧というのが他に抜きん出ている状況であれば、企業も来るし、企業と一緒に家族もついてくる。どれか1つでは駄目で、総合的な形で環境を整えていくことが今後は必要と考えている。

<G委員>

総合戦略がうまく機能し、全ての達成状況が100%になったら、どのような結果を想定しているのか。24ページのグラフの水色の線に沿った形で人口が推移していくことを成果とするものなのか、もしくは、それを超えて減少率が緩やかになっていくことを想定しているのか、確認したい。

人口を減らさない、もしくは増やすという政策には4つの切り口がある。出生の増、死亡者数の減、転入の増、転出の減、この4つだと思う。基本目標1~4とあるが、1は転出の減、2は出生の増、3は転入の増、4も転入の増を目指していると切り分けたが、死亡者数を減らすという取組みがない。苫小牧は糖尿病患者が多い傾向であり、検診などの助成を強化することで早期治療につなげ、死亡者数を減らすことはできないか。そういうことも基本目標の中に組み入れ、死亡者数を減らす施策があってもいいのではないかと思う。

あと、市民の中で一番広まっている施策は、市長が大好きな大作戦系。大作戦はみんな知っているが、総合戦略に書かれている施策が大きな戦略の一つとして動いているという認識があまりない。市長にこの中から大作戦考えませんかと言ったほうがよいような気がしていて、市民公募の立場だから言えるが、ぜひそういったところも事務局から市長に提言して欲しい。

<H委員>

総合戦略のKPIは、コロナ前に設定したKPIだと思うが、実際はコロナが間に挟まり、コロナでできなくなっている項目がある。KPIを含めて戦略を変えずに評価できるのか。軌道修正ができるものなのかどうかを確認したい。

苫小牧に赴任してから3か月しかたっていないので何とも言えないが、苫小牧に来て思うのは、ほかの地域にない元気な企業、魅力のある企業が結構多い。

その企業のオーナー、社長さんは、圧倒的に人が足りない、若手を雇用したいが若手が来てくれないと話している。

先日、苫小牧支店で一般職の採用があったが、地元の学生たちは、地元就職したいが、就職するところがないと全く逆のことを言っており、学生側と企業側にギャップがあると感じた。

インターンシップは、市内の魅力ある企業と地元の学生をどうやったらマッチングできるのかということが重要だと思う。学生はよい会社があるかもしれないが、よく分からないと言っていた。それは、恐らく正直な学生の意見だと思う。実は地元こんな面白い会社があるということを、もっといろいろな形でマッチングができると、札幌に行かないで苫小牧で就職したいなという若者が増えてくると思う。

その仕組みをどうつくったらよいのかというのを会議に出て考えていた。

< I 委員 >

今回、中間年となっており、令和6年までの計画をどう見直していくべきか考えた。基本的には、人口増に対する基本目標は変えないで構わないと思うが、具体的な戦略・戦術は、多少の見直しが必要という気がする。

在宅ワークの増加や働く時間を自分でフレキシブルに選べるようになるなど、コロナの影響で私たちの生活環境は大きく変わった。そここのところを視点にして、中間見直しをするべきだと思う。

オープンイノベーションの考え方が重要で、現在、スタートアップ事業が注目されている。技術革新の恩恵を受けることにより、品質の向上や機械化による人手不足の解消など、そういったことを考える人たち・集団が、苫小牧を含め全国各地にいる。

苫小牧でも、苫小牧市民ホールなど、町の構造を色々に変えようとしている。また、スマートシティ構想や駅前エリアのモビリティ化など、新たなことに取り組み、素晴らしいことだと思う。

これを現実化するためには、スタートアップ事業の支援を行政ができるようになればよいのではないかとと思う。

< J 委員 >

若者と学生の定着という視点で話したいと思う。

高専の学生は、3分の1が苫小牧市内、3分の1が札幌圏、千歳、恵庭、北広島、残り3分の1がそれ以外の地区から来ている。

卒業時点での進路は、3～4割が進学、6～7割が就職。就職については学科によって差はあるが道外が7割、道内が3割という比率。道内3割からさらに絞られるので、市内に就職する学生は非常に少ない。

原因を考えると、まずは地元のことを学生が知る機会が少ないため、地元に関心を持ってなくなり、地元に残ることも考えられないというような負のスパイラルが発生しているのではないかと。

最近では、地元企業の協力も得て、実践的な教育を取り入れ、講師として来てもらったり、地元企業との共同研究も増えている。こうした取組を通じて、学生たちも地元に関心のある課題があったとか、地元に関心のある魅力的な会社があったと、少しずつ知る機会は増え、地元に残る学生も出てきている。

先ほど北洋大学の長期インターンシップの話があったが、素晴らしい事業だと思う。インターンシップは学生にとって就職に対して大きな影響力がある。高専では長期は難しいが、短期でも何か支援してもらえるような事業があると、学生も情報を得ることができ、就職先を考える一つの方策になると思う。

また、まちづくりのいろいろな施策を出しているが、我々でも具体的に何をやるのかが見えてこないの、学生だと特に見えてこないと思う。将来、若者達が暮らしていく町な

ので、いろいろな施策を学生に見える化し、若者から率直な意見を聞けるような雰囲気づくりができるとういのではないかと思う。

<K委員>

保育士の資格を取った人たちが必ずしも就職しているかという、就職していないというのが現状であり、これは就職の環境が影響していると感じた。

また、北洋大学での有償のインターンシップ制度だが、テストケースだと思う。インターンシップを1週間受け入れてくれる会社もあれば、1日で終わってしまう会社もあり、本当にインターンシップを分かっているのかという会社がある。そのような中での新しい取組なので、会社を知る、苦小牧を知るというスタンスでインターンシップをすることは、非常に有意義なのではないかと思う。

<政策推進課長>

委員からでた質問に現時点で答えられる範囲で回答する。

まず、C委員の資料8ページの子育て環境や支援の満足度については、総合戦略策定の際、アンケートを取ったものである。中間見直しの段階ではアンケートは実施していないが、次の策定の段階で、アンケートを実施する予定。なお、現在、総合計画を策定しており、そのための市民アンケートを昨年実施しているので、子育てに関するアンケート結果を後日示す。

次に、D委員の新千歳空港からのJRの南進、スルー化については、国に要望している事項であり、引き続き要望していきたい。

次に、F委員の10ページの一部預かり事業の保育所型と幼稚園型、この数字の違いについては即答できないので、後ほど担当課に確認し、先ほどのアンケートの資料と一緒に示したい。

次に、G委員の総合戦略の成果として何を想定しているのかについては、24ページのグラフのとおり、社人研の想定が緑のラインで、この総合戦略によって青いラインまで引き上げることを想定している。人口ビジョンには、2040年は15万人を維持、2060年で13万人を維持と記載しており、そのような状態に持っていきたいという計画になっている。また、人口大作戦については、市長に提案してみたい。

次に、H委員の今回の総合戦略の見直しについては、この総合戦略を策定したのが令和2年の3月であり、4月からスタートした。苦小牧でコロナが発生したのが令和2年の2月であり、コロナの蔓延が始まった時期と重なるようにスタートし、多くの取組がマイナスの影響を受けている。今回、中間年ということで、取組の内容、取組の追加、KPIの見直しなど、いろいろな部分を見直す必要があると考えている。北洋大学のインターンシップ事業やワーケーション事業などの新たな取組は、総合戦略に追加する予定。なお、インターンシップ事業については、初めての試みであり、マッチングすべく企業の登録をい

るいろなところをお願いしている。

皆さんの所属する、または知っている企業の方が登録に前向きであれば、一報いただきたい。

<政策推進室長>

C委員から、保育料負担軽減策を盛り込んで欲しいという話があった。具体的な策は、まだ決定していないが、市長公約に、出産・育児等に必要な費用の支援を強化し、子育ての負担を軽減しますということがうたわれている。この公約について何ができるのかを検討し、取り組んでいかなければならないと思っている。

F委員からも資格取得への支援とあったが、これも公約の中で、資格取得等、人材育成の支援を強化し、都市部への人材流出を防ぎますと記載されており、同様に取り組まなければならないという認識がある。

I委員からイノベーションについて話があった。スタートアップ企業、行政が支援すべきではないかとの話だと思うが、こちらも市長公約の中に創造産業の誘致や起業支援等、仕事の多様化を進めて生産年齢人口の増加につなげますというようなことが挙げられているので、市として取り組まなければならないという認識を持っている。

J委員からの学生の意見を聞く仕組みという意見があったが、若い世代からの意見は大事にしなければいけないと認識しており、そういった機会を設けていきたいと思っている。

E委員からの駅前が寂しいという意見について、これは市全体の課題となっている。今、駅前再生ビジョンというのをつくり、何とか再開発をしていこうと考えている。

また、防災対策については、北海道が公表した新たな津波浸水想定によると北海道の中で苫小牧が1番津波の被害が大きいということなので、新たな津波想定に対応した津波ハザードマップの改定作業を進めている。

昨年の会議でも、いただいた意見については、すぐに庁内全部署にフィードバックし、しっかりと検討するようにと指示を出している。同様に本日いただいた意見も、それぞれの担当にきちんと伝え、全て反映できるということは約束できないが、可能な限り反映する方向で取り組んでいきたい。

今後も、幅広い視点から意見をいただければと思っているので、引き続き、ご協力をお願いしたい。